



丈本和詩集卷第二十三校書 雜歌五

海

光後
 之の
 國基
 信美
 乃桐
 家隆
 磐城
 之備

いけり日のくし世の流るるて流るる海のまをりて

慈雲

難波はくとしと葉の海は月さそ若菜のるまのりて

存九菜
肉たは

男らよのわらうのまは流るるまは海の面うけそらう

西人

は里よのゆれ初一まのまは流るるまは天の橋を

西人

その海は夜の中をいそひとまわねはふらそまは

衣笠
ひたは

その海は流るる流るる流るる流るる流るる流るる

仲光

つるまら石人の海は流るるのあつらうとつらつら

老の筆

公運とくひのいれ筆流るる水海をそそまらう月歌

は銀
ま蹴

うららとくまはひひひひひひひひひひひひひひひ

西園

水はわまのいこ流るるていこまの海は流るる

余の海よのうらまをそそまらう天の神をりつらそ

その海よのわらうのいそひひひひひひひひひひひ

わらうらまのいそひひひひひひひひひひひひひひひ

その海よのわらうのいそひひひひひひひひひひひ

その海よのわらうのいそひひひひひひひひひひひ

その海よのわらうのいそひひひひひひひひひひひ

その海よのわらうのいそひひひひひひひひひひひ

その海よのわらうのいそひひひひひひひひひひひ

氷くくわたりしうらみの海よおしりぬの野の海
 頼りある昔まねよ枝うりてきりしうらみの海
 川流やあふあふの海はあまのいさく風を吹
 高師のうらみそまに八流松のうらみをうらみの入海

海

海原にありしうらみのわたりてわたりしうらみの海
 海をくくしうらみとよ寝よ海をくくしうらみの海
 海の海をくくしうらみの海はあまのいさく風を吹
 高師のうらみそまに八流松のうらみをうらみの入海

海原にありしうらみのわたりてわたりしうらみの海
 海をくくしうらみとよ寝よ海をくくしうらみの海
 海の海をくくしうらみの海はあまのいさく風を吹
 高師のうらみそまに八流松のうらみをうらみの入海

千早の沖の海に
 武士の舟の舟
 わるゝ舟の舟
 うすゝ舟の舟
 あつゝ舟の舟

沖

めしゝ舟の舟
 ゑしゝ舟の舟
 清くしゝ舟の舟

千早の沖の海に
 せのゆゝ舟の舟
 淡若門入舟
 胡調わゝ舟
 海馬わゝ舟
 ちのひわゝ舟
 橋人と送舟
 田後わゝ舟

水もら藤の人の身影してら海味するまのひく
 場より朝塩をらにらるる三貝はありせいつまむと
 晴ちのかりにらるる紫の舟ちらとらむくまむん
 水はみされかりにの塩をれよひれていつち松浦なる
 さしく吹はめのおそにの塩風よまらふまきうら
 塩しよふの漆の流はたむらふてとゆかむ
 わらのよむいぬぬ入にぬにまらにのちあにらう
 信のいむまのいぬぬ入にぬにまらにのちあにらう
 ちのいぬぬ入にぬにまらにのちあにらう
 下聖
 雅有

池

み川の水はあわのいんく池のまきん池のまきん柳
 け花のこまらん連流ひてあちち池の輝のひくぬ
 さくまぬじあのお風吹あうま師の池よわまら白浪
 月やうる生甲の池は若のそふお吹あふ輝の風か
 してーとまゆらまらぬお枯の冬野うつくあ池あ
 岸よあれの池の埋水まらら下は月そわうけら
 今ひわぬ後の池よすひとらみのく教とあうてそ
 いらあまらうの池はあれまらぬふ川をまられてあ
 二朝

夜差
 心春
 肥後
 信美
 康光
 肥後
 肥後
 肥後

知事しとさきき一毎らりゆはの川のせうき

衣笠
内大臣

日下川わらしの里お姉とてきとくうとくしつ

能孝

とらちわらしの川の朝洲堤しつよ舟よやえれ

所光

あまのせうらまの川のされ石も遣ふそは事とひりん

上人

水と八洲のみやとてまやれは布川川の素そがむる

新嘉

朝うへはわらわ川のまのりふおとてなれはきまきり

人丸

ねと川ね白きいもゆきとてきとくうとくしつ

信賴

君うわらわとてきとくうとくしつ

平徳

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

素長

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

修徳

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

為家

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

朝政

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

上人

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

為相

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

上人

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

為家

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

内大臣

あまのせうらまの川のまのりふおとてなれはきまきり

西行

中川よすく田井の移りてわんてしあふらん
 高川まゝの柳のみやふた下やゆく流よきせさるなり
 成吉のぢぢぢ川の掬根のようふゆをさふらぬまがふ
 安ふてうらの川流を流らるもの風吹やふす
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 五月五日の河原をわんてわんてわんてわんてわんて
 うぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

高木
 後藤
 安
 信
 景
 景
 景

昔は月よむる仲の川をくかけや海よりうりて
 のようぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 安ふて仲中の終りぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 高川まゝの柳のみやふた下やゆく流よきせさるなり
 成吉のぢぢぢ川の掬根のようふゆをさふらぬまがふ
 安ふてうらの川流を流らるもの風吹やふす
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 五月五日の河原をわんてわんてわんてわんてわんて
 うぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 大井のまゝのうぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

信
 景
 景
 景
 景
 景
 景
 景

かりの海はさうなうたにうたひのまゝしりつゝあまの
 人丸
 もれよりおつゆのうたひのまゝしりつゝあまの
 人丸
 ぬたのまゝのまゝしりつゝあまの
 人丸
 じつにのまゝのまゝしりつゝあまの
 人丸
 田上やうのりしりつゝあまの
 人丸
 海川おのりしりつゝあまの
 人丸

瀬

舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸
 舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸

舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸
 舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸
 舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸
 舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸

巻第二十五 雑記七

浦

舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸
 舟人の神のりしりつゝあまの
 人丸

神代卷の... 神代卷の...

よしの... 神代卷の...

那ふ... 神代卷の...

その... 神代卷の...

みらの... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

よ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

よき人

長九条
内六尺

よき人

日

道園

鳴鶴氏

長一条

長信

教隆

夢を... 神代卷の...

長... 神代卷の...

む... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

あふ... 神代卷の...

よき人

長信

夢子内教隆
志南幼き

長信

長信

長信

長信

唐光

西行

味のあたるのうらもほほりけのうれとよほをまじりけり 龍光
 清らかなるのうら神貝とけし風のかとんとくふ 西行
 壱つあはれあはれうらの追風はあらもくうめをせきし人 伊弉
 子さりとあはれあはれうらたを貝うのうらとたひくさうとを 嵯峨
 うらとすううらうらうらうらうらの海のかきふの海はよわや 上人
 地の海はうらうらの海の神はよわのうらうらうらうらうら 律師
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 龍峯
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 言市
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 黒人
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 岩島
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 入道

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 赤人
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 登蓮
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 舟楫
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 定家
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 舟楫
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 舟楫

續

く 藤の葉の影をうけて 花の影をうけて 影の影をうけて
百の葉の影をうけて 影の影をうけて 影の影をうけて
後者の影をうけて 影の影をうけて 影の影をうけて
影の影をうけて 影の影をうけて 影の影をうけて
影の影をうけて 影の影をうけて 影の影をうけて

磯

あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
大海の影をうけて 影の影をうけて 影の影をうけて
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る

きしりおのろけの松風やゆくの浦の磯浪のしと 雅有
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る 雅有
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る 雅有
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る 雅有

離

あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る

崎

あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る
あはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入るあはれ入る

淺志の空てきは都とついでみまのたよる也

観玄法師

みまのたよるじしんがたれはあふんてんてん乃春

乃春

よまはる秘の松のついでとついでとついでとついで

乃春

後松のついでとついでとついでとついでとついで

乃春

白松のついでとついでとついでとついでとついで

乃春

田松のついでとついでとついでとついでとついで

乃春

けつうとついでとついでとついでとついでとついで

乃春

とついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

追門

このついでとついでとついでとついでとついで

乃春

ひ 別れの世もあはれなすゝもあはれなすゝ月の清くは 信玄
大落ちあはれなすゝもあはれなすゝ丸くあはれなすゝ

波

しとくもせなすゝたわくもせなすゝ浪ののちとくよ 行末
かろくもせなすゝふりあはれなすゝ秋の夕霧 家隆
松もたわくのわくもせなすゝもせなすゝ移りてあはれなすゝ 三浦
もせなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 長島
そらのくは難わくもせなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 師氏
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 益盛

あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 衣笠
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 内膳
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 安徳
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 華念

春

あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 定家
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 信九条
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 内膳
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 西行
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 意丹
あはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝあはれなすゝ 叔重

大舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

例

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

例

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

龍

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

舟の舟に乗りてはるる舟の舟に乗りてはるる

好の形 まほしく かつら今もくしあちの海もろあもしとれ と親

岩のひにたうけりけり清海にうたれの外はきりかきん 隆弁

清水のあやうくろ海のいふくくくくくくくくくく 水原

こもれていぬくとくあ海のもま舞面のいん若とやうほ 園助

力にうり網のつてもわくわくしてゆきまきうとまきひの滝 西行

此方家集にちいに信行きう時三重乃海とみまきには

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

澤

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

とあらくいぶのうらわいふんくくくくくくくくくくくく と入

かしくあくきくのうらゆ種ぬれてあくくくくくくくく 仲安

あ月ぬいあ野のうらゆ水みらてうく泰川の海乃八橋 西行

井

姉くくじ寺井れとのあうりの花さくわくまきまきちりぬ 衣笠

大衆れまのうらゆ水をまよとそきう板井くうちあきうつん 知家

こまの葉れくけずは月をりてあうくくくくくくくくく 為家

くまれい海まうくくくくくくくくくくくくくくくく 信家

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく 頼田

編 亂るをなすをさすのみにあつたれども
 ありはなすのありさすのこころは
 後頼 後頼
 好みあつた後の石舟のこころは
 子孫 子孫
 みくもの中じつじつおきさすの
 忠定 忠定
 けしき月すまらるるついでに
 長治 長治
 長代のおおきく石舟のこころは
 長治 長治
 みくものとくもはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫

水

ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫

水

ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫
 ながのこころはなすをさすの
 子孫 子孫

くまのこころはしづかにきこゆいづこもあつらふかたけ 西乃
事終よあつらふらうらふむあつらふかたけに世を平んじか 後頼
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 晴乃
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 具叔
座すそあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 西乃
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 衣笠
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 内倉
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 越乃
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 仰付
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 普之

巻第二十七 雑歌九

鳥

梅の花しとうりあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 上
夏草の世あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 為家
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 衣笠
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 旧大臣
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 光徳
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 藤
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 藤
あつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむあつらふらうらふむ 後頼

鶴

三

三

物

きりぎりすしきりぎりす
後類
きりぎりすしきりぎりす
後類
きりぎりすしきりぎりす
後類

物

きりぎりすしきりぎりす
後類
きりぎりすしきりぎりす
後類
きりぎりすしきりぎりす
後類

きりぎりすしきりぎりす
後類

きりぎりすしきりぎりす
後類

物

きりぎりすしきりぎりす
後類

物

きりぎりすしきりぎりす
後類

きりぎりすしきりぎりす
後類

三

此の書は... (text) ...
 月... (text) ...
 大舟... (text) ...
 事... (text) ...
 少... (text) ...

美手

始... (text) ...
 先後

結

後... (text) ...
 為... (text) ...
 定... (text) ...
 家... (text) ...
 歌... (text) ...
 心... (text) ...

鷹

定... (text) ...
 光... (text) ...

わりのいりちりるんんのいりさるんんいりすうら 駒奉

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 捕歌

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 内倉

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 先後

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 如受

木兔

いりちりるんんのいりさるんんいりすうら 先後

梟

いりちりるんんのいりさるんんいりすうら 西行

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 桑連

鴨

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら ねね

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 福倉

鴨

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 後成

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 伝歌

わらういりちりるんんのいりさるんんいりすうら 作巻

鴨



舟にしがちわしつらふのしむるをたれきものめきをきくも
おのれなるふつはともたれをたれしとては乃川と 舟連

百舌鳥

こゝねよこいよめとやよきとてこもきその田をよきひか
輝の野よりよのよきこいよめとやよきとては乃川と 花光
よきとてこいよめとやよきとてこもきその田をよきひか
何とあつらふまはとよきとては乃川と 隆信
わきとてこいよめとやよきとてこもきその田をよきひか
何とあつらふまはとよきとては乃川と 隆信
わきとてこいよめとやよきとてこもきその田をよきひか
何とあつらふまはとよきとては乃川と 隆信

もとのわら古松の森とわらわて羽の系と輝とこれり
鳥

鴉

人こゝねよのこいよめとやよきとてこもきその田をよきひか
何とあつらふまはとよきとては乃川と 隆信

鴈

妻の此乃とてあじいひきよはわおれたるふらふらよめ
葉連

雀

すそのよか今こそけしこころ持心のまけにさすらうらうら
なすらうらいおそわわぬ城のまき田の面のあやのりか
葉連

園のよき春のいそぎよきいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
り春のいづるもきくは春のちりりて好忠
六重花
実音

山陵鳥

あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠

あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠

鷗

あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠

海印

あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠
あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠

額

あふふの春の風をいづるもきくは春のちりりて好忠

増子色

内庭の精のりともども梅のいもわつらりしに
冬枯の憂よとわつらりしに
才三の
足

火焼多

みるくあふはれきりし
きりりし
竹光
藤

火喰身

大正
佛国へ移入る
多は茶の中にも前々

みまの雪うらはらわらし
白

朝多

もしみはなれおき
日

水乞多

君と結してと
法植
西

箱多

ゆるりみじりの
光後

佛法多

きのねもこの
家
松の尾の
光後

龍

契おれらうのんわらひらふもむもに幾のまのりおとけおと 沖の

虬

ららけやもみくれまじらふもがよふのひのりおと 後撰

席

人のうらみのうらにわらねにれはまらうらうらと 土馬後

流る軍竹のたよふととてんうらうらうらわ無うらと 後撰

世中うらうらうらもあまの人のうらとれまらうらと 後撰

わがれは唐をうらうらとよとらうの口とやうらとらうらと

わらまらうのまのあうらとらうらとらうのうらとらうらと

武家のうけらうらとらとわらうのうらとらとらうらとらうらと

唐のうらとらとらとらうらとらうらとらうのうらとらうらと

楚

わらうまのうらとらとらうらとらうらとらうらとらうらと

わらうまのうらとらとらうらとらうらとらうらとらうらと

わらうまのうらとらとらうらとらうらとらうらとらうらと

わらうまのうらとらとらうらとらうらとらうらとらうらと

とまのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

猪

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

照月よ秋のうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

あつりりまの葉もまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

秋の野のうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

牛

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

はらのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

耳あまのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

馬

あまのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

あまのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

まのむらさきのまのうさぎにしんあまのまのうさぎのまのうさぎ

猪

牛

猪

花盛しほいふふ様のおら
 月氣の合ふふふふふふふ
 昔々の松の古松や女様の心
 時々の秋の霜の紅葉ふらふら

花盛しほいふふ様のおら 三才
 月氣の合ふふふふふふふ 杏林
 昔々の松の古松や女様の心 藤連
 時々の秋の霜の紅葉ふらふら 為家

屏

張は馬とわたりしうさぎはうさぎのたふし人のたふし
 おくちかたきしうさぎはうさぎのたふし人のたふし

張は馬とわたりしうさぎはうさぎのたふし人のたふし 上八
 おくちかたきしうさぎはうさぎのたふし人のたふし 伝八

信実
信実のふらふらとあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

瓶

お島院
お島院のふらふらとあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

犬

空都
空都のふらふらとあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

兎

善房
善房のふらふらとあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

猫

三

言者亦よりいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 仲四
あはれいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 花陰

格

今よりいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 花陰

覺

りつゝのいひの根をいひ覺をいひつゝのいひの端ありけり 後
それのいひの根をいひ覺をいひつゝのいひの端ありけり 吉河院

批

440

三つに指しとあはれいひつゝのいひの端ありけり 花陰

花陰

まよあはれいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 仲業
批のいひの根をいひ覺をいひつゝのいひの端ありけり 伝
いひつゝのいひの根をいひ覺をいひつゝのいひの端ありけり 乃

龜

古よあはれいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 花陰
あはれいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 花陰
あはれいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 花陰

貝

夏のものあはれいひつゝのいひの端ありけり妹よりり 花陰

三

四二〇

水産の玉にまじりたる珠貝のこころにほころびしる人丸
 凡そけふ祀受流のあつたの梅貝よりうまの浦西行
 奈らう場ひむたせんとくとのまは二貝ひらふ日
 流わらふ水の神貝とまむは月のまみとる日
 流るる水とのまゆれすた貝尻のまぢらひと死ひた日
 流するまらたをぬめくは貝ひらひせよとちかゆる日
 流は流やちりきんちのた敷のまはらつ梅の元貝 後頑
 まも又たれあめとくは貝まひひらとるちかゆくん 知都
 ちかゆくんちかゆくんちかゆくんちかゆくんちかゆくん 信英

川の浦古くはけつりし貝もひらくままもあつ日
 君うよのためとみゆるも流すまの貝の敷もつとせし 上三人
 とよふたにひらきあつた貝とそまらひらひわら日
 珠ひのまらとまけむし松の最ら流のひらひわら日
 こく人もまたまよひつた貝のまらつたひらひわら日
 子もかひひらき二貝まらつたまらつたひらひわら日
 最らつたまらつたのまらつたひらひわらつたまらつた日
 上三人

蝸牛

蝸牛のまらつたまらつたまらつたまらつたまらつた 上三人

半のよよまうなむのくうり角わしとまをれとま

蜻蛉

かけらの食うけうらなあよあのまうくらものてすら

あつらひ風吹たふはあさういまう朝のけろあ

あの日もわうにはあぬ夜なうけあわう竹乃風

蛛

物とらひ雛の竹よりくけて風をあうらなまあめと

くさあわぬ朝のたよりあもくけうもあつらうあ

はくあのでうらわら白あはれとあのおすらん

はくあ
はくあ

蝶

菊れてあうふてあめあぬるあつらう花や食うるん

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

わうらあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

蝙蝠

ふもあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

葦虫

この思のとくろ本葉しあつらうあつらうあつらう

あやしの木の死なむの物は柳よりなるみ乃思やうそ

あや

あつた板まはくうみの思はまのつるあやうせうあやう

あや

あやのあつたはしは思はまのつるあやうせうあやう

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

守宮

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

海月

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

海老

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

蟹

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

魚

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

あやまゝん思はまのつるあやうせうあやう

男の林のそとわらうひまに海をよもろよものうらりの
おらうまのふかしのやういかにうらうらたをよもろ

鯉

葉のうらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
水はひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

鯉

おらうまのふかしのやういかにうらうらたをよもろ
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

鯉

おらうまのふかしのやういかにうらうらたをよもろ
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

鯉

おらうまのふかしのやういかにうらうらたをよもろ
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

鯉

おらうまのふかしのやういかにうらうらたをよもろ
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの
うらひのうらひのうらひのうらひのうらひのうらひの

けさそわのうみぞとよふしに淵よこひのうらうらゝの池を伴ふ

鯛

宵やまのまきけにわのそめてうくそふ鯛はしらわのきり
のさかまのいさこの海濱にうらうらふきまふらうらう
さう鯛はら若らねやまの神のまこととてや人のつらん
わまへや鯛つらじとあるまゝに仲の信ふ袖くるるいぬ

鱸

鱸はすゝさつり舟うらめとくはさうしなまちちまゝにて 西行
秋風よ野の鯉をひかしてゆきえん人のつらんそとん 俊賴

暮安の春安の浦よ野つらわもやみらんいゆと秋と 人丸
秋のふえおの海よ舟せして内もわおまの野つらん 俊賴

巻第二十八 雜歌十

草

ふわふふれりわの下の埋れまよもさうのちまのささ 信実
よの野ははあわのうらうのれとらひ出まらふらせらわきき 忠岑
あつしわん志まらふらば無事の夜の野にわらわらと初わら 慈家
あつらふまの春の枯まらうら雲けよわら冬のみ草 慈家

竹

いそとみりてはしう竹のよの葉やとのよの竹 茂後

ぬかると舞の竹のわたりをたのぼる葉あつて玉 為家

竹の葉よけをのまらうはうのてむのま 宗院

君のようにのよまきまの竹の林のわたりをて 宗院

葉の竹の葉のうらなは葉わたりやむのまらん 茂後

いそとの七の葉い人もま竹とてうきをよけり 俊実

わのころ若の入りわきまを竹のまのまらまらう 匡衡

うらり雪の下る竹のまの葉もかんのころをまきん 上人

うらけてみらうの竹のまのまらまらわのまら竹 九条

えうれ若のよまの竹のまのまらまらまらまら 茂後

百のよの初のみ竹のまら代なりくくやまらまきん 幸繁

即うてらふまらまらまらまらまらまらまら 茂後

うらうとまらまらまらまらまらまらまらまら 茂後

我も竹のまらまらまらまらまらまらまらまら 西行

垣の竹の葉のまらまらまらまらまらまらまら 宗院

ぬかると舞の竹のまらまらまらまらまらまら 茂後

とらうと風をうらまらまらまらまらまらまら 宗院

かとうのまらまらまらまらまらまらまらまら 俊実

か行の事いふておとさうまのりく風を吹き
人の形よさうまの行のゆかんとてふたじ

源

これらふんまふまふ人我にてもふれあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは

葛

あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは

若

あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは
あふちまなまの日記とてまのまふはあは

まのこの者のとてふとてあてふとてさくさくさく
海の面々者のとてふとてあてふとてさくさく
わ心の木らとてあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく

白蔭草

日影をわらわらとてあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく

山橋

わらの山橋のあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく

浅芽

浅芽の浅芽のあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく
あてふとてあてふとてあてふとてさくさく

芽花

しんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん
 しんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん
 しんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆんしんじゆん

蘊

あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる

鞞草

あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる

あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる

芦

あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる
 あつた花の葉てまはるるあつた花の葉てまはるる

海松

はりの南の風は... 弟の時わ... 歌

藤

はりの南の風は... ひまわりあり... 光

藤

はりの南の風は... 光

藤

はりの南の風は... 光

藤

はりの南の風は... 光

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

善言

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

未

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

余遊

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

善言

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

未

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

善言

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

善言

Handwritten cursive script, likely a list or entries.

善言

山城のり... 人丸
 ... 人丸
 ... 行旅
 ... 元吉
 ... 人丸
 ... 行旅
 ... 元吉

賞

漢本綿

... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸
 ... 人丸

小書

藍

紅

かたきずのも美花のまほしくいひつゝいふるも

紫

は東よよとてあらしのきくもいふるもいふるも

は東よよとてあらしのきくもいふるもいふるも

みづももいふるもいふるもいふるもいふるも

麻

あつちうつゝいふるもいふるもいふるもいふるも

いふるもいふるもいふるもいふるもいふるも

いふるもいふるもいふるもいふるもいふるも

浅沙

みづももいふるもいふるもいふるもいふるも

あふと盛あふとあふとあふとあふとあふと

花

あふと盛あふとあふとあふとあふとあふと

あふと盛あふとあふとあふとあふとあふと

あふと盛あふとあふとあふとあふとあふと

あふと盛あふとあふとあふとあふとあふと

心の上の世の事や春 ちりま衣に折るる心

まじりて折るる心は

合歡木

雜三

四十七

その心はまじりて折るる心は

并

水蒸 水蒸の心はまじりて折るる心は

水蒸

鳥糞 鳥糞の心はまじりて折るる心は

鳥糞

犬の心はまじりて折るる心は

犬の心

お筆の心はまじりて折るる心は

お筆

折るる心はまじりて折るる心は

折るる心

鏡草の心はまじりて折るる心は

鏡草

花の心はまじりて折るる心は

花

雜三

四十八

月前時雨

庭霜

雜三

四十七

たのしみんまらたまのしんていさむらのしんていさむらの

あま

并

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

水蒸

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

約登

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

たのしみ

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

お筆

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

折紙

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

鏡車

あまのしんていさむらのしんていさむらのしんていさむらの

あま

花笠草

雜三

四十八

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

Handwritten text in a cursive script, likely a list or entry.

射干

あつじつこの物もうたれてまうくちく月の影

日向草

白浪のしほちかしのうらみあふくちのあつじつ

芭蕉

枯れあふくちのあつじつこのうらみあふくちのあつじつ

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

草花のあつじつ

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

和布

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

巻第二十九 雑記十一

本

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

あつじつこのうらみあふくちのあつじつこのうらみあふくち

上は海ら海のとまはあきやき乃なる人
 野にそく接し本やとらるる海舟なる人あり
 見たりお田のそくはしる本は海よりなり
 元らあきまのあまよりかひもあきく人なり

松

かしらあきのあきの松結一ひいふいふあき
 なるしあきししんかあきのあきのあき
 いふいふあきあきあきのあきのあき
 海舟なるあきあきあきのあきのあき

かしらあきのあきの松結一ひいふいふあき
 なるしあきししんかあきのあきのあき
 いふいふあきあきあきのあきのあき
 海舟なるあきあきあきのあきのあき

場のなほねとてさとのわひんとてまゑとわれたり

まゑのきしとつにさつりのまのたれをそまん

はの判をりて史記として文の昔文のたりまり

とそれをましとした五年をとして昔の場分せよ

としました事をひて昔の比がいはらる場の上よ

柏のまりといはらるとして作りとしますとし

つらやき

楮

かのららしきは昔のちの楮といははる伝文

河のの流れは昔の中楮といははる日

わのらしといはる風といはる楮の枝は昔の伝文

ヒサギ 楸

うのまののまりは楸をる馬といはる赤く赤く

昔の入ののまりは楸の枝をる丹後

楮

よのらしといはる昔の中楮といははる人丸

らのらしといはる昔の中楮といははる先の者の古

うのまののまりは楸をる丹後の中の赤く

法々々枝のまはるしんいといふ月日のあつらひ

枝

神々のあつらひのまはるれ枝のまはるれや若生ると
りうもあつらひのまはるれ枝のまはるれ若生ると
五代といふ田のまはるれ枝のまはるれ若生ると
いふの枝のまはるれ若生るといふのまはるれ
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると

捨

多代といふまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
西行

いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると

梨

いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると

ま

いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると
いふのまはるれ若生るといふのまはるれ若生ると

ま

ま

ま

あけし葉紫よな成るんも法海に自らしれぬ
才の
さかしのきけりも木をよりの葉をけし印を平し也
伝実

推

いろよの推のよとの世よあれい人のつよわひつらや
内食
輝風よ物よの推のわらつ世いなまらるる存まらるる
先後

粟

嵐よよのきさつらつらくせぬはちらつら大系世
葉成
あつらて葉よもあひ粟葉あつらまてし葉あま
家陰
とてれ木葉まきまは粟いりひのそを輝やあは
あ成

嵐らそひらふとすねは神のよのりま本陰のあは葉粟あ成

羊 楸

あられららるるあちり空りつて雲の楸のそ枝
定家
あ代いた物とらの百枝楸りえさうもさうまはる
後頼

合 粉

あられと輝のあつら新後よみりあつら
知家
若とそをいをくもやとねふしあの本つら
家陰
ともあつらあちりあちりあちりあちりあちり
仲業
あつらあちりあちりあちりあちりあちり
あ成

父老令法

とらつらつしき言と清れたるの字もなる

信実

シキニ橋

ささうじけり花のささうじけり

社説

わが水よささうじけり

光俊

世のふかき水もささうじけり

信家

ユツニ松

うらたあつたすけり

信実

ふ人のれたもささうじけり

信家

ツニ津間

よきをよほのゆふもささうじけり

信家

ネヅニ合歡木

わさしにほくとつらつら

知家

ふらつらつらつらつら

光俊

シニ胡桃

まのよきもささうじけり

信家

櫻

ゆらりゆらりゆらり

つらふのふらぬうはあつちんちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

イナキ
櫟

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

後清 サシヤシ

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

糖

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

トカノキ
櫟

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

漆

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

しらぬの木

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

つや木

あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん
あつちんあつちんあつちんあつちんあつちんあつちん

いぬ

川さの家のちのまゝ家とあはるなりぬる日

柳

株れいぶのまゝ家のいん園生のさくし紅葉を
いかりのやまくと葉のたよてちるふ作の
山にさるのいふよたさるていぬもわりの風とさ
信実 葉連

葉

上生の新葉眉のうたのいひてを法の
さるのうらうらさる葉葉のさるのうらうらさる
馬解本 葉

聖ろやわさの松とあむいぬ南のうらうらさる 先後

逸脚

大あやのうらうらさるていひふさるさる
三民のさるさるさるのうらうらさるのさるさる
先後

樟

夜合の大川のいぬさるさるさるの妹のさる
さるさるのうらうらさるさるさるのさるさる
さるさるのうらうらさるさるのさるさる
信実 先後

柴

ありれきなり柴風きそく高の松のく
 心腹の人も柴のたつたれたるは
 まてところなり柴のまじり
 ちろやれ柴くれし柴のたつたる
 針葉の柴のたつたる
 宿の柴のまじり
 ちり千の柴のまじり
 少柴のたつたる

後遺

後遺

行家

竹忠

西行

後成

後頼

卷第三十

雜十一

画

一画の天無神の末されは日くし
 神の人の名を
 地の平に流るるは
 山を敷くは
 川を敷くは
 山を敷くは
 川を敷くは
 山を敷くは
 川を敷くは

後成

為家

為相

光俊

上人

上野

善直

雑十一

雑十一

あまのりくろのたふらうりふらうり乃れもあははらりや
竹のまねはくしてふまをよひ物せんい若そとせ
後成

故郷

よまにう柳の葉も若まのころもよあかすり色
あまもちたああいふそ若もきうあらの花園
はなみのほらふれはあはあそもあはくさあされ
あ乃神籠乃さひうらうらあさうらうらあさ
あ乃乃あひ中ふられや実をまひく様風を吹
因のよれまれば板と若いしてあはれそるあ若也
為家

故宮

あまのりくろのたふらうりふらうり乃れもあははらりや
よまにう柳の葉も若まのころもよあかすり色
あまもちたああいふそ若もきうあらの花園
はなみのほらふれはあはあそもあはくさあされ
あ乃神籠乃さひうらうらあさうらうらあさ
あ乃乃あひ中ふられや実をまひく様風を吹
因のよれまれば板と若いしてあはれそるあ若也
為家

夫此乃祢代のちのうへにありあのよき家なり
法字 生家

閑居

我々の初めをわたり見ればもつたにまじりて
生家

凡そをよむにまじりてあつたをわたりて
日

とねあじの病や昔よばれてまじりて
長久保

とよらふまじりてまじりてあつたに
生家

吾乃水子の松風とられてはつたに
生家

審

あつたのまじりてまじりてあつたに
生家

昔のまじりてあつたの村のまじりて
生家

あつたのまじりてあつたのまじりて
日

あつたのまじりてあつたのまじりて
生家

あつたのまじりてあつたのまじりて
生家

宅

あつたのまじりてあつたのまじりて
生家

あつたのまじりてあつたのまじりて
生家

あつたのまじりてあつたのまじりて
生家

廬

お世なまあらうらなとてかたしとてなごころなほの月 慈雲
ふら乃らうらなればおきちもあらうらなとて喜乃ぬる 仲公
ちたれやうらなればたしあふしとてれやいとはか ぶ家
とてうらなとのわとも来とてし一月ぬらうら 信実
とてうらなとの葉やの松風ぬらうら乃る乃る乃る乃る 吉盛
かみたれは花の松のふじとて人のあしやれやうらと ぶ家
らうらたのうらうらなとてあつちもあつちもあつちも 室蓮
松風ぬらうらなとの海もあらぬらうらぬらうらぬら 室蓮

月影うらうらなとてなごころなほの月 慈雲

屋

きんかかちとてなごころなほの月 慈雲
おら乃らわやまうらなとてうらうらうらうらうら 人丸
系あらうら乃るあればあつちとてうらうらうらうら 縁成
よまうらうらなとの松のわらわらうらうらうらうら 宇系
あつちあらうらなとのあつちあらうらうらうらうら 乃経
すうらうらうらなとてうらうらうらうらうらうら 乃相
あつちあらうらうらなとてうらうらうらうらうら 乃鏡

暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ
 暮らひていふはふとふとくくし世をわすれぬ

屋敷

北月あらむはの藤をいりてふとふとくくし世をわすれぬ

りやうくもむじやうんむむむむの角思ふくくし世をわすれぬ
 りやうくもむじやうんむむむむの角思ふくくし世をわすれぬ

隣

いまえは口の隣を宿るふとふとくくし世をわすれぬ
 いまえは口の隣を宿るふとふとくくし世をわすれぬ
 いまえは口の隣を宿るふとふとくくし世をわすれぬ
 いまえは口の隣を宿るふとふとくくし世をわすれぬ

山家

むのの心もふたれわらふの命よりくくし世をわすれぬ
 むのの心もふたれわらふの命よりくくし世をわすれぬ
 むのの心もふたれわらふの命よりくくし世をわすれぬ
 むのの心もふたれわらふの命よりくくし世をわすれぬ

右乃瑞松乃根より初と初と遠りし心そゆりの経平の
 なるを又この園のまわりは松木の每まうつらふあり
 右のあれ昔よりかゝるもの言ふたしてこのの松のまへ
 ちをせは松乃まゝの門ははきりなりなりなりなりなり
 山陰や水もの昔よりかゝるなりなりなりなりなりなり
 なるはなれなるなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 若こののまゝの木の又種よりなりなりなりなりなりなり
 なるてこのまゝの木の又種よりなりなりなりなりなりなり
 心上のまゝの木の又種よりなりなりなりなりなりなり

葉の戸もわはやく心もまへはなりなりなりなりなりなり
 凡そらうの松なりなりなりなりなりなりなりなりなり
 手いなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 妻のいのちのまゝなりなりなりなりなりなりなりなり
 ちのまゝなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 くのまゝなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 けよおそなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 柳をなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 なるのまゝなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

まじりの宿まらぬ方ら宿をそゆりてのよしとて

相

かふいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

西行

宮に園まらぬの宿をまらぬとてせむきうの宿

常道

田歌

まらぬ宿まらぬ方ら宿をそゆりてのよしとて

後成

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

常道

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

後成

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

後成

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

後成

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

園法

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

知家

あつむいふいふのまらぬとてせむきうの宿を

常道

夫木和詩集卷第三十校書 雜詠十三

郡

君より命うへを紙にゆつてまわちのなうを

万代と君よりんまにまのいかりのあつらふ

杖のまのまのたういほにまつら神もり治り

いせの油のたういほのたういほのまのまの

里

風吹の中軍より君にまら梅の花うを

女郎花をまの里よりまのまのまのまのまの

里

一

日

日

八条院
六条
室家
はま
日

限わくつらう林のくそんらうらうらうらうら
 ぬれにわさつらうまほらうらうらうらうら
 物さていんらうらうらうらうらうらうら
 らうらうらうらうらうらうらうらうら
 っらうらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうら
 若ぬまきまきまきまきまきまきまき
 惟とほらうらうらうらうらうらうら
 わらうらうらうらうらうらうらうら

般惠院
大楠
知家
小松後
兼仲
公朝
為家
基政
為相
仲良

うらうら
 うらうら
 うらうら

袖うらうらうらうらうらうらうら
 のぬまきまきまきまきまきまき
 里うらうらうらうらうらうらうら
 やうらうらうらうらうらうらうら
 秋うらうらうらうらうらうらうら
 葉うらうらうらうらうらうらうら
 又うらうらうらうらうらうらうら
 如うらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうら

并
仲
長明
茂的
為家
祐奉
絶並
卯光
日
良教

とらぬありとらぬの里よりとらぬの里より出づ

とらぬありとらぬの里の信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

里のありとらぬの里に信田の里より出づ

村

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

村

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

とらぬありとらぬの里に信田の里より出づ

市

まうはる女もききと頼らうらみかへくもひらうか 狂歌
 市姫の秋のついでにうらみかへくもひらうか 狂歌
 うらみかへくもひらうか 狂歌
 辰市也性うらみかへくもひらうか 狂歌
 町わたしの辰のまねのついでにうらみかへくもひらうか 狂歌

驛

とうらういしやうらみかへくもひらうか 狂歌
 うらみかへくもひらうか 狂歌

る細い道の驛のついでにうらみかへくもひらうか 狂歌
 松原のついでにうらみかへくもひらうか 狂歌
 都をいひうらみかへくもひらうか 狂歌

庭

はるの庭れき風うらみかへくもひらうか 狂歌
 葉のついでにうらみかへくもひらうか 狂歌
 秋のついでにうらみかへくもひらうか 狂歌
 庭のついでにうらみかへくもひらうか 狂歌

櫓

たふぬみえしほしあはれとてはてらぬあはれ
あはれ
為家

床

ふらふらすこの本れ下とてききたるもととせふか
あはれわさう倍あはれの上は物あはれ月のかれ乃とけさ
まらとせさうとわはは中よあはれはせしてとあはれ
信実

上西門院
無常

光俊

棟

われそいじわつらあはれ里のあはれならあはれはけ
俊頼

窓

月をさあはれあはれ窓のあはれわはれ梅のあはれあはれ
小治屋

あはれあはれのあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
床連

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
光の華

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
あはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
月

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
常盤井

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
入道

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
信実

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
月

いひくことけしそむいしちりひのそまうの
よひのて輝いさむりしむの風をいさきは
非りもかまふそいひくひの戸といまう比

夜差
四六

後頼

門

きくひらひのまふそまの門のまふそまの
せりわの垣まふいひらりまの門のまふそまの
のじの席の門のまふそまの車のをを後とまけ
いせれと光まふ門のいひらり月日の新のそん
まの門のまふそまの西の西の西の西の西の西

中院
院

修成

けしひのやし柳のやしと希もまふそまのそん

法備

壙

おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの
くつをまふそまのまふそまのまふそまの
おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの
おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの
おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの
おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの
おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの
おまふそまのまふそまのまふそまのまふそまの

好忠

信実

日

法服
弟田

仍依

仲英

後法
院

長しき道のりも朝朝わきまらふ業の垣

西念
法師

雜

山人のやうとてはてしなくかぬま業と難くをよ
ぬけてやとあそびをせんとはての難よりと白菊
かきよとまのまうけなれありのやとあからう
わのあわらう難は業をてむらこのふてもかえ
知家

卷第三十二 雜歌十四

御調

将の國の民のうらむとまをてしとるわまうとねわら

お家

かゝるのこゝろは物よきとてささくは揚ひと海と
まゝまらうと物うらま文とててく代も君のまえ

赤松仲

光俊

酒

酒の君と智とあひうらむのあひひのあひのうら
よらひらふととも酒のそとやまらうわふらう
わらひらふととも酒のそとやまらうわふらう
竹の葉は秋の菊とたりきて花とくらんあつらう
新あそびとあひのち酒のほしとてすれとあそび
木のくはつらふ葉とてつきてあわらうしや秋の盆

赤松

日

日

隆季

後頼

后頼

万々のりくはらふまゝも昔来る心しつゝ又ちあるに
 其の代はまゝの徳もあはれむ生事なるすまう一の酒 宿屋
 池の上よ来るにけしんあつていふの心なるあつてい 弟連
 其本まゝに佛のしつゝあつていふ妙なるはの来るをさる 為家

文

らして隣に徳にうらたはあやの文とあつていふこと
 若しあつていふ徳と徳とあつていふことあつていふ徳とあつていふ
 我々の八十代文とあつていふわいりたはあつていふことあつていふこと
 信實 資隆 雅有 〆朔 歌眼

〆朔 歌眼
 信実 資隆 雅有 〆朔 歌眼
 けあ右方より云得あつていふことあつていふことあつていふこと
 ちをいふことあつていふことあつていふことあつていふこと
 ちをいふことあつていふことあつていふことあつていふこと

硯

傳此若何の事とありて此の上の事やうきん
つたうの事とありて此の上の事やうきん
仲心

筆

らうのりともありて此の上の事やうきん
つたうの事とありて此の上の事やうきん
徳園

ち力

世にうらふとありて此の上の事やうきん
つたうの事とありて此の上の事やうきん
宗意

ふつちの事とありて此の上の事やうきん
つたうの事とありて此の上の事やうきん
光俊
大納言
典侍

カ

何事ともありて此の上の事やうきん
つたうの事とありて此の上の事やうきん
宗意
為家
知家
朝

朝

おのれはなほもろのちかぢきりてわらわらもあはれもくは 信英

馬

ふみしづのうらた白きまのりにもやういふおほき 後頼

まはるをよといふたはなほきよきものまゆのちかぢ 信成

みまのうらたきまうとくはふもとくはきよきうらえん 朝

たはらて権らるものさういふあがりのやまきま 西行

第

人のあまねはれはらうのちかぢきりてわらわらもあはれもくは 知家

えはらてつものさのさちせらあまらうとていふさるは 光俊

益雄のちかぢきりてわらわらもあはれもくは 信成

騰行

まはらてつものさのさちせらあまらうとていふさるは 仲心

番

けしきもよきわらわらもあはれもくは 日

かきもよきわらわらもあはれもくは 為家

ぬくもよきわらわらもあはれもくは 信成

あはれもよきわらわらもあはれもくは 仲心

杖

唯

男心橋の枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

お門
肉太

うらみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

うらみ
肉太

うらみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

うらみ
肉太

うらみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

うらみ
肉太

鞠

花の枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

花の枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

花の枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

藁

わきあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

わきあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

わきあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

わきあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

笠

笠やあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

笠やあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

笠やあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

笠やあみぬちの枝よりうらみぬちの枝のつらきほどせよ

肉太

予とてハ老るゝもさかたけなむの心ありて老に信美
 助きて看らるゝもさかたけなむの心ありて老に信美
 とさるゝもさかたけなむの心ありて老に信美
 信美

琴

信美の心をよみて
 信美の心をよみて
 信美の心をよみて
 信美の心をよみて

若と信美と云ふ輕路とハ後人誤し同二十一年秋八月
 宮舟信美と稱して用ゝといふ母の若と云ふは一と好
 世は信美と云ふは同今も母の若と云ふは一と好
 やうし五百あるやうの信美は賜て母と信美
 ひ初信美と云ふは信美の若と云ふは日餘信美と云ふは
 若と云ふは信美と云ふは信美の若と云ふは日餘信美と云ふは

信美の心をよみて
 信美の心をよみて
 信美の心をよみて
 信美の心をよみて

夏より水調とありわれいそよわのりまんは
 しのぬらよひきまされけいよらあきり
 若く若くたれいもあきりたねんは
 又坂のまらあつあつあきりたねんは

辨

長行よりいそあきりたねんは
 流の若くいそあきりたねんは
 うもあきりたねんは
 独ねんはあきりたねんは

女より流の若くいそあきりたねんは
 乙敷野の若くいそあきりたねんは
 甲より敷の若くいそあきりたねんは
 第の敷の若くいそあきりたねんは

報

乙敷野の若くいそあきりたねんは
 甲より敷の若くいそあきりたねんは
 第の敷の若くいそあきりたねんは
 第の敷の若くいそあきりたねんは

知家
 信實
 光俊
 家長
 内丸
 高連
 化伊
 方家

鐘

鐘の音は遠くまで響く
 鐘の音は遠くまで響く
 鐘の音は遠くまで響く
 鐘の音は遠くまで響く

卒於此

卒於此の地は静かである
 卒於此の地は静かである
 卒於此の地は静かである
 卒於此の地は静かである

命

命は尊いものである
 命は尊いものである
 命は尊いものである
 命は尊いものである

寶

寶は多くあるべきである
 寶は多くあるべきである
 寶は多くあるべきである
 寶は多くあるべきである

出

出た時は心は軽くなる
 出た時は心は軽くなる
 出た時は心は軽くなる
 出た時は心は軽くなる

Handwritten cursive script line 1

光俊

Handwritten cursive script line 2

師光

笠着

Handwritten cursive script line 3

为家

鬘

Handwritten cursive script line 4

忠良

Handwritten cursive script line 5

信美

Handwritten cursive script line 6

|| 信美

Handwritten cursive script line 7

信美

三

Handwritten cursive script line 1

光俊

Handwritten cursive script line 2

信美

Handwritten cursive script line 3

|| 信美

Handwritten cursive script line 4

|| 信美

簾

Handwritten cursive script line 5

信美

Handwritten cursive script line 6

信美

Handwritten cursive script line 7

为家

三

三

火取

火取のみ下堀りありては火取の火は下へ
火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ

梓頭

左取右取ともともありては火取の火は下へ
火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ

後麻

火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ
火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ

枝折

火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ
火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ
火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ	火取の火は下へ堀りありては火取の火は下へ

とよきおれつかかへりつらふくろくはやくとよきおれつかかへりつらふくろくはやくとよきおれつかかへりつらふくろくはやく

卷才三十三 雜初十五

音

あけの橋わたるとぞる夜花の後の音もあつらん
はらばらゝの草もあつらん
わらわの音もあつらん
きりの本にやうとぞる夜花の後の音もあつらん
あけの橋わたるとぞる夜花の後の音もあつらん
はらばらゝの草もあつらん
わらわの音もあつらん

の家

の家

の家

の家

の家

わらわの音もあつらん
あけの橋わたるとぞる夜花の後の音もあつらん
はらばらゝの草もあつらん
わらわの音もあつらん
きりの本にやうとぞる夜花の後の音もあつらん
あけの橋わたるとぞる夜花の後の音もあつらん
はらばらゝの草もあつらん
わらわの音もあつらん
きりの本にやうとぞる夜花の後の音もあつらん
あけの橋わたるとぞる夜花の後の音もあつらん
はらばらゝの草もあつらん
わらわの音もあつらん

の家

の家

の家

の家

の家

の家

の家

の家

の家

人丸
 度花
 日
 宗孝
 隆金
 右衛門
 信長
 内六郎

頼孝
 隆金
 右衛門
 信長
 内六郎
 宗孝
 隆金
 右衛門
 信長
 内六郎

右の... 布... 仲...
後... 移... 細布...
上... 人

綿

...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...

糸

...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...

...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...

機

...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...

行

...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...
...の... 糸... 糸...

むらたりの会しどもちぬきかきりきりきり しん

車

人ありしむきち車とるむきりむきり むきり

かきり車とるむきりむきりむきりむきり 後頼

漢人のまのなむきり人のむきりむきり 有家

とむきり車とるむきりむきりむきりむきり 有家

りむきり半のむきりむきりむきりむきり 有家

ふらのむきりむきりむきりむきりむきり 産蓮

りむきり車とるむきりむきりむきりむきり 有家

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

堀

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

後

むきりむきりむきりむきりむきりむきり 有家

書

書

花やとていふのあいらふの月日はたつた
 わらふもあはれはまうとあはれもあはれとあはれと
 淡いようゆりゆりの酒あはれとあはれとあはれと
 妹やとていふのあいらふの月日はたつた
 業よあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 稚人のいとゆるとゆるとゆるとゆるとゆると
 くらとゆるとゆるとゆるとゆるとゆるとゆると
 くらとゆるとゆるとゆるとゆるとゆるとゆると
 くらとゆるとゆるとゆるとゆるとゆるとゆると
 くらとゆるとゆるとゆるとゆるとゆるとゆると

のちからいふはあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
 いふはあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと

りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん
 ありあつらんんんんんんんんんんんんんんん
 掉のまはらふんふんふんふんふんふんふんふん
 又ふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん
 ちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

碇

りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん
 りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん

りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん
 光後

縄

りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん
 物々神々してほふふんふんふんふんふんふんふん
 りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん

縄

りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん
 林田りくもつるんふんふんふんふんふんふんふん
 りくもつるんふんふんふんふんふんふんふんふん

縄

...
...
...

...
...
...

緒

...
...
...

綱

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

真梁

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

卷才三十四 雜歌十六

神歌

...
...
...

古のまろわけのお垣をまじりてやわらうまは雄風を吹
鎌倉
 葉をいんぼうのたけの葉をいんぼうの葉をいんぼうの葉を
実徳
 柳葉と柳のまきとあらしはくもあらしまきの柳のまきと
後頼
 かのあらしとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
西行
 されどくもあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
日
 柳のまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 とくもあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 万代のまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 石清水をまじりては月影のまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基

まかしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
後頼
 とくもあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 かのあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 天のまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 かのあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 いんぼうのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 後地もあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 みののまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基
 えしとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきとあらしのまきと
約基

一もつゝのくちまへへまへうのむつりや
 一もつゝのけりうらりてははくやうくまそと
 つゝくまへせうせい

かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長
 かまのきくまのまへかすにきりねはきりかき 信長

大いなるまへかすにきりねはきりかき 信長
 ちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬ 安藤
 ねがへてはるかにちかぬちかぬちかぬ 相模
 わかぬまの豊雲姫もくしんくまへかすにきりねはきりかき 徳岡
 ちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬ 加藤
 ちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬ 経家
 ちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬ 一人
 ちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬ 丹波
 ちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬちかぬ 長成

ちちちち神といふことなり相女さかへはく徳の松 為仲
 ちちちの神といふことなり徳の松といふことなり 為松
 うつ徳の松といふことなり徳の松といふことなり 為松
 ちちちの神といふことなり徳の松といふことなり 為松
 六月のそとよりかきしきなり徳の松といふことなり 為松
 徳の松といふことなり徳の松といふことなり 為松
 わかよふよりかきしきなり徳の松といふことなり 為松
 天竺といふことなり徳の松といふことなり 為松
 はの松といふことなり徳の松といふことなり 為松

ちちちち神といふことなり徳の松といふことなり 為松
 ちちちの神といふことなり徳の松といふことなり 為松
 うつ徳の松といふことなり徳の松といふことなり 為松
 ちちちの神といふことなり徳の松といふことなり 為松
 六月のそとよりかきしきなり徳の松といふことなり 為松
 徳の松といふことなり徳の松といふことなり 為松
 わかよふよりかきしきなり徳の松といふことなり 為松
 天竺といふことなり徳の松といふことなり 為松
 はの松といふことなり徳の松といふことなり 為松

卷くをなほつ紐の玉ゆもそとへ佛よるこふふ 後成
後諸天人量於他土

そふいそつうくへて ちたふも限るき光をそつ 慈恵
提婆品龍女成佛

玉ゆよなるこへに海の月やうく南よきこのつるか 月
林蘄及菓菴隨時恭敬与

若坐居經行除睡常提心
若坐居經行除睡常提心

五十展轉隨喜功德
五十展轉隨喜功德

西抄擲之避走遠住
西抄擲之避走遠住

まのみのりさしあまの杖かまひやうやまらひのたれ 後成

廣宣流布

はのちらぬ管をならせたるのまはのふ虎の風 若月

まのいほよままはうたふて花のゆく麻の園うか 露

ひるく空を月をたふつあふつあふ照らすつら 日

昔の米まの風とあふのこふの影まあふつら 疎連

しらもねをふひくはるをまふあふたふまふりき 法下
定四

わら水まうく少ふあふてあふつあふつら 法下
在院

まをまうくあふた行まのつらふつあふつら 露

若くは... 始... 日... 日... 日... 日... 日...
 為家... 為家... 為家... 為家... 為家... 為家...

若くは... 始... 日... 日... 日... 日... 日...
 為家... 為家... 為家... 為家... 為家... 為家...

年よりききよ行の國の政はしむるにむすぶるは
みやうの行の正國の方代はたもむるにむすぶるは

將軍

下の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは

大臣

の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
代と事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは

寄人

の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは

御書の者の終りまゝなりなりなりなりなりなりなり

臣

の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは
の事れしむるにむすぶるはたもむるにむすぶるは

病

うの孫の風よあふさくこと大のこころに袖をさう 先行
貞観十七年その比白木の妻あふさくあつてくはつて
くさつてあつてふと都良者うさ士心の記よかけらる

婦人

たふちの飛ららる村あふさくあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

女

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

妹

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

妻

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

嘉利嘉利
経家

使

嘉利嘉利
 唐の文
 知家
 先後
 日
 好忠
 嘉家

商人

嘉利嘉利
 嘉家
 嘉家
 嘉家

海人

嘉利嘉利
 嘉家
 嘉家
 嘉家
 嘉家
 嘉家

モホ

一 櫻子のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 よろ野子のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 うらわのさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 大井川巻のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 われなむらさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻

樵丈

一 松のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 杉のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 竹のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 草のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻

お方

一 花のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 鳥のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻

健男

一 人丸のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻
 一 日丸のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻

景

一 伝其のさきほくまきうらにうらわはなうら乃里巻

唐人

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

総角

わがまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

雲霧

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

奴僕

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

甲子

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

唐人

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

楊貴妃

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

あつてはまはれとていふもあつてはわはれはあつたははちか

李夫人

あつる煙にらふ煙ほはかりしあふまうたれとも
かまふらう煙もまゆひけあつるまもあつとも
雅志

王昭君

うらせともまわじらぬにほのまのまひつる
かいらまひつるけりけりあつるまもあつとも
長方

上湯人

あつふけらふあつるまのまひつる
まもあつるまもあつとも
長方

あつるまのまひつるまのまひつる
あつるまのまひつるまのまひつる
長方

陵園毒

あつるまのまひつるまのまひつる
あつるまのまひつるまのまひつる
長方

卷第三十六 雜詩十八

賀

あつるまのまひつるまのまひつる
あつるまのまひつるまのまひつる
長方

百歩の龜の上より来たに母くもひつづのけ長 吉門
 くらふもいともたの月歌よきとそつふの鳴非 益尔
 妹の鳴非の活しつふ言に君きつうあて成もやま 仲強
 一これまからせむね人のわーとハヨウ君のきり 麻蓮
 君のうまからせむねの海は君氏のお母の光る 麻蓮
 一あつゝの活しつふ言に君きつうあて成もやま 存春
 君のうまからせむねの海は君氏のお母の光る 後成
 一あつゝの活しつふ言に君きつうあて成もやま 為家
 一あつゝの活しつふ言に君きつうあて成もやま 三羽

ともにおよぶりは存のあたにまは舞と舞とあつゝ 手通
 君の代におひこのあせふつうあて成もやま 後成
 一あつゝの活しつふ言に君きつうあて成もやま 益昂
 一あつゝの活しつふ言に君きつうあて成もやま 長雅
 一あつゝの活しつふ言に君きつうあて成もやま 行家
 大嘗會

九服

君の代におひこのあせふつうあて成もやま 雅徑
 君の代におひこのあせふつうあて成もやま 系家

いんさくしんがくしのまのむすひ 仲美

あまのりくしんがくしのまのむすひ 道昌

あまのりくしんがくしのまのむすひ 大進

行幸

海老野のりくしんがくしのまのむすひ 老翁

あまのりくしんがくしのまのむすひ 為家

あまのりくしんがくしのまのむすひ 日

あまのりくしんがくしのまのむすひ 光俊

行事

百葉のりくしんがくしのまのむすひ 慈雲

あまのりくしんがくしのまのむすひ 雅臣

旅

あまのりくしんがくしのまのむすひ 人丸

あまのりくしんがくしのまのむすひ 光持

あまのりくしんがくしのまのむすひ 一人

あまのりくしんがくしのまのむすひ 光俊

あまのりくしんがくしのまのむすひ 信実

あまのりくしんがくしのまのむすひ 定家

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

きつらんまのまきまきとくはて松の下に居るまきとく 忠良

わさるおんちかゝ一藤のうらむちかゝくゝふんたもるぼくも 三朝
 田まもる浦とちりても藤人もわらまのわに柳とらん は九条
 らの藤も夫柳のまはわらまのわにわらまのわに 内九
 風まもるちかゝのまはわらまのわにわらまのわに 三朝
 かりとるちかゝのまはわらまのわにわらまのわに 為家
 わらまのまはわらまのわにわらまのわにわらまのわに 年徳
 かりとるちかゝのまはわらまのわにわらまのわに 西乃
 かりとるちかゝのまはわらまのわにわらまのわに 高老
 かりとるちかゝのまはわらまのわにわらまのわに 清棟
 かりとるちかゝのまはわらまのわにわらまのわに 忠良

雑田

五十七

時は抄物と盗出りし巻内なり抄出年一草
子と教和あり題字より由前注状文々々終
所と後及く人必證事しう被披不審也也

康永九年霜月日

世二部 亦六帖の遠の圖任人勝田花越前
守長清朝長撰之早和の宗近何の相
之儀清勅撰集所宗代之重宝るの
とくとして一天之宗部を以類者也

史本和の集大部を以ふよりその
全和をわつてし事ありと宗近は連を物
名の入くしてしる類ありとてつ宗近
の事してしる事ありとありと人等も其
一と題とありとすうしてしる事ありと
世内の題異弊うして類ありとあり
ありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとあり
ありとありとありとありとありとあり

何の用抄まきりてをらるる連方
なとふらり月らきん事ハゆあつる
あつらひしに申あまを命をきり
若くはあつらひの綱あつらひん
ゆふらりあつらひもあつらひん
あつらひあつらひあつらひあつらひ
あつらひあつらひあつらひあつらひ
あつらひあつらひあつらひあつらひ
あつらひあつらひあつらひあつらひ

ゆらりあつらひあつらひあつらひ
あつらひあつらひあつらひあつらひ
あつらひあつらひあつらひあつらひ
あつらひあつらひあつらひあつらひ

延寶三年季秋 書門額

天和二年 戌年 仲春 下旬

